849
55

帙入

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

地震後世俗語之種

初篇之五

帝國圖書館藏

帝國圖書館藏

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

849
55

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』 請求記号 849-55
ガラス使用

爰に善右衛門の番頭かり様のまを角兵衛と
其世話する様の禁免にかたく廿五日の
立の時過て、彼善右衛門の番頭のうへふ
所夫婦に従ひ是御もとひ新橋の角兵
まを人を首領まで所の人をたて相模東たん
行て仮宅して世話をする時を伺ふ様子に
為来る人をひの備をかれとかの家業の
世をまを小説ものをかを作をを義を家業を
高信を所人をを数を乱をひをを
世を仕を自上還をといへとの面兵見合せて渡の

神兵衛を乃みを此歌やるかをを家を
妻子を氣力兵をけをを少し世話をを
運をとしをを世話少世をを孔を兵衛を
をを中に中裝をを志をを中に東町を相撲を
續来て大を実をを郷をを面を北をに
何ををを小事世を一をを迷やを我
人をおをまを一を為兵運を面ををを
比を兵衛を迷を行を小を滑をを地震を
山崩を屋川の流を兵衛を歩を一滴の如
をを世来形兵衛を待を一て自由を歩行を

堪花川を堰かんとして砂を積み
費石を積み流れを堰き大河の末孔留に
留まり一時に溢れや変に出でて
海と流れ変じて海を其時面目を
変ずいかなる天変二面或は山中虚空
藏山又岩倉山とかしの地大山崩れ後
に成て犀川に到り犀川筋又山中方川中嶋川北東
水災等之事ハ都而後編ニ委敷
と言ひけるそいなる大変二面或は
間を語るなかれ方語るひかうちを

志ゝ計通ゝ一命助て又今変ハ
大地の大河に押出し
ゝ水災ハかなる事に成なを
途方ハなるなる変善ハ
富内乃ものハ言ひ須を潮ゝ
此用言を為ゝ
語乃格二本を井掘之本のほか竹のを
為ハ何ゝ通ハ新に抗と成
ゝと川ゝ打込ものあるを
小石に成ハ上げゝ潮ゝ
ゝ

[illegible]障子かゝる紙の新きを根岸柱とも
共洗ひ外く屋敷縄くるまきを敷きと
川と敷を立て洗ひ塗障子敷田ま
屋根は用意を更工るゝ命敷まとう
拾出せ一ハ二品の敷を山屋の中乃
世まけまいとて加るゝ積をこのうへ
ゆかを屋変化はあるまゝ世仮の用意を
多用乾と事わ屋の外屋を家根ゆを上
漸く敷敷廻け米をくるゝ洗ひも
世仮出敷樊つけゝを傳と倒まを洗もる

千辛萬苦疲るを事社ことをりを事
五分訳は多かりけるハこを一後
ゆを家乾ことを出店板矢立ゆ
叶意の逃ひうちゆ草ゆまこうゆ
壁花敷を敷ゆを敷またを家
者ゆ吟ん事敷頻ゆを家敷家敷
立加川けるをひまを待ゆ石まを
途をゆ自ゆ一後屋屋とも家ゆ
屋を行かまを八戸柳ゆ家深石洗もゆ
一敷間ゆを掛分大変まを氣根敷商

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55
ガラス使用

第一は其夜の都合より夜ひ迄
逃るに度毎に我れ先にと親の病を我れいと
ふて只我れ先に地震の動きを恐れて
為に是れと云ふ所につかせる迄
むすめ世話御無事の置の如くなる書面
の中に師匠を断りて
看病に入る為なりて今日迄
為物我背負風呂敷包我れ先に逃
去る事初合点吟味に成ぬ事
無事に帰りて断りて夜我仮寝と

定第二は今日水の押寄る小屋物ハ
主個事拵へ逃のひ汐ひの間を
守護の箱とらうと思ひ居る
當百銭位に家を無事小頭けの程に
成れ是異変起り逃去ると其ハ
以ての外の通逃行とる者なる
ものとて言少事無合点に風呂敷
包我れ自己事小背負まに草履を
結ひて程なくつけ三個小屋の間小
寄落居始て安堵ハ落涙く

年を九ツ位なる男子世話の
なる間二度ほど何ふとて毎度
毎ものゝ出まるも無る大変二面義なる事
除く世話をなすこと絶なりとくをすり
狼狽を社宮ノ内ニ隠れとなれ
と風を煽く強人大勢ハいとちかけ
火のもを言ふまきたり十丁ばかりの
先まで吹まくり屋根乃瓦ハ落
言葉をハ一言ハ其言葉耳残つ
如玉魂伐乗ニ一面を乗ニ吹かけ

吹つけ乗ニ一ハ乗ニ
数〳〵ニ面ハ新〳〵ニ
何ニ乗ニ一ハ乗ニ
ニ面ニ乗ニ八ニ面ニ
ひく〳〵業を
ハ乗ニ一ハ乗ニ
まるニ口ハ乗ニ面
組礼一ニ度ニ乗ニ
ニ乗ニ新ニ乗ニ
ニ乗ニ吹ニ乗ニ

前代未聞ハ
五集ハ仮残
生味噌ハ
ニ乗ニ
ニ乗ニ
ニ乗ニ
ニ乗ニ

屋うつもいたちのふるまいの
たてなをかぶるふる倒まを使は地獄の
河こおるまを用のそけしくうをを
洋来ふ夜ゆの面取ひ清くを伊まく
元ちを屋根をふ小屋をふ小ハ等くを元ぞ
複板ち戸ぬを元をまを義河くを吹四面
ち一傘かをしてうの川ふ水り徐く俗
鯛うををつのうの川水ぬうへの戦ちを
以ふるは事ふるはらをと地震鳴動を家
毎地ふを元まを形しまく元神石戦るる

をを義うちに東雲以
十六日の時五西山の峯戦四峯を
ほをのちを人海いふるを地通ふの
拝東ふをいふ作をまふらを拝ち
命をまを人氣の騒を宮をの早を
ち水を義ふをうて八好をとうを
をを義人戦つ来ぬを神ひぬけふ児を
抱ひ老人を背負ふ逃をを眠こを
ふを市城を戦高云を逃ザを小家
ところを人戦をつふ山戦を狩等の

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』 請求記号 849-55
ガラス使用

[illegible]人[illegible]怖しく[illegible]ふ[illegible]五戸[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]地獄[illegible]苦痛[illegible]
[illegible]話し[illegible]人騒[illegible]
[illegible]もの[illegible]の[illegible]屋ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

用意[illegible]縄[illegible]抗[illegible]
一[illegible]焼[illegible]徐[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

田畑我場ともに流れ失せ大変なりてあり
摩川のあふれを、二日迄荒れ通へて渡船もなく
遠国を備る人々いとまなく
あんやおもに流れて渡船の場所一高の
水手若き流の勢ひ我一ツ石ゆるして押出
ようはいかなる災害の勢を有来やと恐れて
稲かるに雷雨小浜沖我遠ひ大海に浪
漂ふかゆ一挙に倒れ変化なる海ふ大
風を起し又五百我蔵を地を一刻に六七度震
備之助災我無なりて地水風害我なりて

五所きたるなり地水風害我なりて五
所を絶ます孫を五人の身我を
いとも立ずを流るを人は地我潜む
事一かたり一名の里家なる人二十七
人ほに及ても我子の死骸を所
こゝふ伝聞我を こゝ人情を五七人
須我無く伏一ツ見ひ乳ゆ上へ我
場ひ見ひ独我場ひ死人我なを
いとも見を云かゆ人分ゆ人度
せを落を角ふ場を上絶ゆ死骸

時候清物新穀の旬ひ異成うかちを
くもきるの意味言葉上絶ておもむ
き徒男女の区別なく屋敷まつり山蓋の
遊事に大小使成りまちせ事多るうと
ゝとも蜘蛛提灯揚げ歩行事
更ふ事なく常ゝなる成しかの抑上乃
四色御なく少なるもをうに絶つけ遣
成を義を弄し物たるよ八をしやうよ
ゝ如成うけなく新成涼しかこと元
成塚て新本成入四弱まて伯成横来や

見んまて汁成意基の成行こ陸宮ふ
ゆをもし成ちり物の家節成乃
多ふるもしをきの過義ふとをるる
矣なりをもをやとるや思ひもよぬ大変を
をもも井立ると廻行けと凝り
て分山屋掛とのをもも見新るも
せをふるをこをふ意ゆる事変をして
宮成編こ縄をるを自然とお見えを
絶るうふつくをを絶ぬ事とて山屋掛を
かうを高角をを新金ふやあるせをやと

何れ能き物花の美うるせそなはれ
撃を乱せ一如久日毎に唐く移ひたへ
戎を待て焼海地獄
如乃家別を更工夫の
好笑いかとあるとの
云話うしく向て八戸後戦明か
小乃言葉ばで面てこ
変所の人こそや苦痛に絶果てん
地上の方を好者と時の寄さへ
衰滅者楽生滅も言工生滅の何きる

更り夜事に少四分の八秋に何ふまと
東岡の言の外を美吹迄ふ焼
たる大地遠ほえ国の生美百見七八郷
こうまと少屋くの何かも自然とも
洲をこうを戦語ふ陸奥をまより
東分自ふ表も郷行 田舎中家
一下少屋が一こう一下屋田見ふ過者
何屋定ふる方戦八時文戦行見
て東ふ出分語の帰戦待て衰と
家ふとふふ石角ふ

度の地震後の地震後の
地震後の地震後の地震
後の地震後の地震後の
苦痛せざる者なし
苦痛せざる者なし
苦痛せざる者なし

命を失ひ我親の亡霊此寺を尋ね
給ふより涙深く悔いる所の事共
迷ふと又問ふ事を止まず
慈悲の為に今日百万遍を
称へて霊魂菩提乃為仏事
供養せば倍々善所の悪風吹
来る事あらじかと思ふ
下僕夫婦ともに我先
笑ひも多かれ我この者を頼て
心痛より救ふの思病にまかせ

思ひ當ること有ひ
ちかけ(ま)ハとて越生の仲理を
人と頼みておかれ
巨仏和尚と云て逮夜迄居給ふ
大勢鬼共も頼て早速工郎川之絵
けまを掛ら度実に法衣を付
仏具を揃へ寺中の人用を成
整ひて四角を屋かけ
ちかの変死の者
布施物を出さるとも
是早竟供養(廻)

をうかがひ仏徳をたうとぶ乳八香の物
計をもて昔かたり遠方よりも知音たち
来り座にあひ一仮借裏をうるとそ
いと新なる珍味少をもうれ乳八時も急きて
仲人拙方をやと四人同とうなの
用意をうるをいとなる仏具をうる免
信徒うるをうるをうるをうる一汁一菜と
いへるをうるとも貴ひとしへ来客をうる
仮うを待て所業乾物をうる調度しうる
明方四里をうるけるを四日移る乃

東天時流星西暑想ごうる小屋八まうり
世間乳八四年に乳戒浦五屋仏
前に香花を供ひ何元とうる物
をうる家和尚の来るとて
出迎ひうるに来て御遠方とひ
まう供四人乳ぞうる稲城を
かうをせ供人供霊七八人引連て国を
一寺の和尚と見四人を這寺師の海道を
見人大を来給をうひて羅漢和尚を迎
をうをせ文より本上施俗鬼海方好をうる家

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』 請求記号 849-55
ガラス使用

所の壓死者の親族等は
捜ひ来りて四向殘骸を
探索といふ人〻来りて戒名位牌
書留めて佛壇に置き一四向へとそなへる
只不幸の共後に見舞ひ
たる多かり居り乃ち第五の諸人棒死
苦痛の形情を視て此れ
死骸を〻まで術なきして
まかりて
中はまるいまて書淫して向島
の地獄鬼成

実に雷より恐るべき大風暴雨
大風と共に吹きて仏前の
其余の家〻檀上より吹飛ばして
揚句まで又吹飛ばして
吹飛ばし〻つかみ
て諸人の親族を
地獄を成して
て
滅ぶかけをめて
小時雨土風雷と

悲哭ふ事を為ん事を願
家を記せ事を事を人の家より
てを為の事を為ん事を世を世隆を
ふ動ふ道を為家の感度実ふ戒事の
人を歴死のかを行戒を為に止る事一為
為一悔む一

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』 請求記号 849-55
ガラス使用

849
55

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』　請求記号 849-55

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『地震後世俗語之種』 請求記号 849-55

ガラス使用